



会報 第20号

・発行所・  
栃木県立真岡北陵  
高等学校同窓会  
・編集・  
同上編集委員会  
・印刷所・  
こだま印刷

## 伝統は今も

同窓会長 菊地 恒三郎



母校を巣立つ若者を同窓会の新会員として迎える季節になってまいりました。

営農に携わる有能な人材の育成を掲げてきた真岡農業高校も、社会経済の変革や時代の養成に込め得る学科の再編成の中で、農業のみならず流通や情報産業の担い手を養成する総合職業系の真岡北陵高校になって早一年が経過しようとしています。

母校が変わっても、私たちの卒業した母校には若き日の青春時代の変わらぬ思い出があります。母校は、仲間とともに人生の一時を共有した魂のふるさとであり、心

## 『新たな伝統』の構築を

学校長 安野 弥一郎



同窓生の皆さまには、母校にたいし、常日頃のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

本校も昨年四月、総合

選択制専門高校として順調なスタートをきることが出来ました。八十八年

の歴史の中で最も大きな変革の時を迎え、私達は先輩の皆様が築いた輝かしい伝統や校風を次代に

しっかりと引き継ぎながら、新たな伝統の構築に努めてまいりたいと思います。

四月に、新生、北陵高校として最初の新生一年生二四六名を迎え、学校全体に一段と活気が出て来

たように感じられます。建物等の施設設備も年内一杯でほぼ完成し、新しい施設で授業が始められたところであり、是非一度ご覧いただきたいと思っております。

本年は第四六回日本学校農業クラブ全国大会が本校で開催されました。

全国から、約五〇〇〇名が本県に集い、各種発表会を始め各種競技会、各種会議、式典等が行われ

成功裡のうちに終了することが出来ました。特に本校は、栃木県学校農業

クラブ連盟の会長として、準備から本番に向けて、

すが、同時に新たな伝統も築いていかなければなりません。

母校の限らない繁栄と同窓会の発展のため同窓生各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 青年部長として

平成二年度卒

真岡支部 桜井 一郎



青年部長として本校の同窓会青年部長を引き受けて一年が過ぎ去ろうとしています。呼び名が真岡北陵高校と新しくなりましたが、今までの伝統を引き継ぎ頑張ってください。

八十七年にわたり、優秀な農業後継者の育成教育を努めてきた真岡農業高校も時代の変革の中で時代にあった農業、商業、家庭の三科系をもつ多機能高校、「真岡北陵高校」となりました。これからは農業のみならず幅広く産業界に活躍できる人材の育成に携わることになった本校を基礎とし生徒諸君のより一層の活躍を期待しております。



## 校旗の由来

本校は、平成七年四月一日より、栃木県立真岡北陵高等学校として、新たな教育活動を展開しております。学校名の改称にともない、新しい校章、校旗を作成しました。

写真右の校旗は、北陵高の「北」を図案化し、左右の翼は夢と希望に満ちて、さわやかに飛翔する本校生の明るい未来をイメージしたものです。また、本の形に見立て、英知を養い、創造性に富み、温かい心で社会に貢献できる生徒を表現したものであります。なお、色彩については、金・銀により温かさと豪華さを表し、その回りは従来の伝統を継承し深紅で制作しました。

左の写真は、新たに完成した商業科・家庭科棟です。商業系学科（ビジネス会計科、情報処理科）と家庭系学科（教養福祉科）には、それぞれ最新の教育設備が整い、充実した教育が行われています。

（事務局）

## 農業士に就任して

### 大規模土地利用型

#### 農業経営をめざして



昭和三十九年度卒  
南高支部 黒崎 宣芳

私は、卒業後、迷うことなく就職しました。学校では当時複合経営を学び、その実現のためには、まず、機械化一貫作業による水稲の省力化が前提でしたが、当時の農業機械は価格が高く、なかなか手が出ませんでした。経営改善が進まないまま数年が経過し、昭和四十六年複合経営実現のため、この連棟ハウス栽培を導入しました。そのかわり、大型農業機械の免許取得や作業の実地講習

等を受け、地元農協のオペレーター等も行なってきました。昭和四十八年頃からトラクターを始め、田植機、自脱型コンバインが活躍し始めましたので、これを契機に水稲の機械化一貫作業が出来るものと思いい、次の年に地域の仲間とともに、営業クラブを結成し、農作業の受託を始めました。昭和五十五年頃から単なる農作業受託のみでなく、町農業委員会や農協と学習会を行ない、農用地利用増進事業による借地契約を結び始め水稲を中心とする10ha規模の土地利用型農業経営を目標とすることを決意しました。それと同時に立地条件の悪さで湿害の多かったいちご栽培を止めることにしました。

その後数年間は、幾多の困難に出会いましたが、営業クラブの仲間や地域の専業農家の仲間とともに知恵を出し合い困難を乗り越えてきました。その結果、平成四年に念願の10ha規模の土地利用型農業が実現しました。(当時の経営規模は、水田10ha、受託作業18ha)。転作強化に伴い期間借地をし、麦、大豆栽培に拡大してきました。今では、五年前に就農した長男と私と妻の三人の労働力で、水田16ha、農作業受託29ha、水稲育苗五千箱を経営しています。大型農業機械のトラクターやコンバイン作業は主として長男が受け持っています。後継者が出来た動機としては、土地利用型農業の確立に向け、経営基盤を整備したこと、及び家族と長男との話し合う機会を多く持ち、環境づくりの心掛けてきたことが大きく影響したものと自負しております。その長男(芳博25才)もサラリーマン家庭から伴侶を迎え、この平成八年春に結婚することになり、家族中で喜んでおります。今後は、米を取りまく情勢が先行き不透明な部分が多く、将来ともに健全な農業を考えた場合、当然現状に満足することはできません。後継者が将来ともに安心して営農が出来得る経営基盤をより一層整備していく大きな課題があるものと考えています。

私の住む地区では、昭和三十年代の土地改良事業でしたので、一区画20aと狭く、今の大型農業には条件が悪い上に、借地の水田が点在しており、この面からも機械作業の効率を低下させています。このことから、大型区画の再整備土地改良事業の検討や学習会も地域のひととすすんで行なっています。我が家でも、今後を考えた場合、大規模土地利用型農業経営を目標にし、さらに、将来は農業法人化をも考えております。

## 優良農家紹介

### 我が家の農業経営



昭和四十四年度卒  
山前支部 大塚 哲男

私は、昭和四十四年度に真農高を卒業し、同時に就職しました。当時の我が家では、米麦を中心し、露地キュウリ、小トネル等を栽培していました。二年目にパイプハウスを十アール導入し、苳栽培に取り組みました。その後、規模を拡大し、ハウス面積を増して来ましたが、また、品種も、DNAから麗紅に変わり、今は、女峰を栽培しています。

### 私の農業



昭和四十四年度卒  
山前支部 柳澤 健一

私は真農二年生の時、野菜を選択して、苳栽培を経験しました。三年生の時、プロジェクトで苳栽培を始め、卒業と同時に出荷が始まりました。ところが、ウドンコ病が大発生、ダニは出るわで、いくらも販売出来なかったのが思い出があります。

それからというもの、地域の栽培者たちの研究会に参加させていただき、いろいろ学ぶことが出来た。おもしろいのがわかって来たような気がしました。卒業から十五年、昭和六十年には、花栽培を始めました。苳を栽培している時から、シクラメンを作りたかったので、なん

のためらいもなく入っていきました。その作物を栽培して見るといろいろ出て来まして、この十年間は、毎日が勉強でした。これからも、作っている以上問題は付きまとうものですが、前向きでがんばりたいと思っています。

### 我が家の農業経営と課題



昭和四十五年度卒  
山前支部 小菅 和男

私が、真岡農業高校を卒業して、早いもので二十五年がたちました。卒業すると同時に就農し米と苳を中心に営農してまいりました。当時苳は、単棟の小トネル栽培でしたが規模拡大し大型ハウスを建てポット栽培からウオーター、夜冷施設に切り替え、早だし栽培して年内出荷に努めています。

苳作りも年々厳しく連作障害、農薬公害、労働力不足などの問題をかかえております。又今年の春には基盤整備という一大事業がありハウスを移転しなければなりません。この様な問題を地域の苳作り仲間や営農指導者方

と研究し協力し合って行きたいと思っています。私が常日頃思う事は、農業の高齢化、後継者不足という事です。これから後継者を育てて行くには「農業は楽しい」、「農業は素晴らしい」と言える事を若い人達に教える必要があります。それには、農業もサラリーマン方式にして農業経営に取り組めば後継者も育つのではないかと思います。

農業経営面積

苳 三〇アール

米 三〇〇アール

労働力 妻、父、母

### 花と一緒に三十年



昭和四十一年度卒  
七井支部 太田 正明

ふと、夢中で、花卉経営をしている自分が、あれ、もう、花と出会って三十年も過ぎてしまったのかと思ひ、その経過を、ふり返って見たいと思います。いや、高校生活を、ボーッと過ごし、技術者にならなかったのに、農業高校で満足せず、もう一度普通高校の入試を受けると、退学した友を見て、正解だ！うらやましかった。そんな過ぎ方、三年生になった時、初めて選択科目に、花とあり、選択生をつつて

いた。新任の峯岸先生と、四人の生徒、校舎の前のちびけな温室、でも私は、やっとなが来たよう夢中で勉強した。ビニールハウスも無く、見学は遠く、県外まで金もなく、ヒッチハイク、夢もあり苦労など感じなかった時代だった。卒業してプラ、プラしている時、又々運がこころがり込んだ。海外研修はどうかと、海外移住クラブの藤沢先生より、話があり、一返事事でOKした。横で親は何も言わなかった。決して、親

の言葉に、耳を傾けぬ、親不孝の息子を、見ぬいていたのしょう。試験に合格し、一年間、オランダ語を学んだのですが、リンガホンの教科書にNEDERLANDとあり、外語大の先生に何故、ニージランド語を勉強するのかと、質問したので、ネーデルラントとは、低い土地という意味で、オランダのことだった。恥のかき始めがオランダの出会いでした。古い昔だったので、研修期間が、一年以上も、となると見送りもすごいものでした。地区の人々友達、みんな万歳万歳と送られ、再び横浜港で、テープの雨、ボーボーと港を離れると、目頭が熱くなり、日本の友人四人でガイドも無く、船から、

シベリア鉄道と、珍道中の末、無事オランダ到着、一番の失敗談は、トイレです。公衆トイレのこと、行く、と、H.E.L.E.N.とあり、ありやこれは、ヘーレンか、こっちはナ、すると、D.A.M.E.N. ダメか、困った末に、がまん出来ずに、林の中でするという有様。オランダに着いて、日本の農業という、私の概念がここでふっ切れたのです。ランの農場でしたが、経営者と、労働者と全く別、自分は下町の下宿より、通勤するといふ。そんな毎日が、私にはバラ色、週休二日、八時五時まで働き、あとは、どろんどろん遊び。農業の良さを学びました。

今、自分で、他人に勝ることと言え、唯一苦勞しただけです。オランダ語が出て来たこと、世界中に友人がいること、東南アジア、ヨーロッパに、私の家ではほんの少しですが、日本の良き、農業を学んだ、研修生が、一生懸命がんばっていることです。自分で十分楽しく、花卉経営をしているつもりですが、私の奥さんには、まだ勝てません。何年もの入院生活中に、子供を一人で生んで、花の温室を守ってくれたのです。かっこいいことを、研修生や、友人に話すと、常にハラハラしているのよと、「一言、この言葉、頭と心にずしりと重い、奥さんの希望がかなうとき、それが私の三十年のオランダ産スプレーマの美しさが、日本の家庭の中で咲き乱れる時だと思っています。

## 優良農家紹介

### 今日までの営農経緯



昭和四十八年度卒  
大内支部 飯塚 隆 弘

この度は、優良農家表彰ということで有難うございました。

私は、昭和四十八年度に、園芸科、第一期生として、現在の真岡北陵高校を卒業し、又在学中は花木を専攻しており、卒業後は、ある造園会社へ見習いとして就職いたしました。母校へも、仕事で、たびたびお世話になり、バス停前の赤松の移植、武道館前の赤松の移植、校舎前の枯山水工事、その他の管理、移植工事など沢山の仕事を、数年にわたりさせて頂きました。「おお、飯塚頑張れよ！」などと、先生方にも励まされました。

五月から八月位までの夏の二回の安定した収入が得られなくなり、JAの指導の元に、夏秋茄子を取り入れました。

二回は、サンヒュームなどによる土壌消毒、完全土壌分析、堆肥、微生物、微量要素などの投入により、生産当初の一・五倍位の収量を得られるようになり、肉用牛においては、輸入自由化後ホルスタイン種より、F1雑種に切替え、品質向上と、ゆきとどいた管理により、事故などが激減しました。現在三十五頭程飼育しております。

今日の、農業を取りまく情勢は、大変厳しいものがありますが、ゆとりのある、農業経営の確立ができるように、JAと農業改良センターの先生方の指導の元に、地域の仲間達と、努力しあって行きたいと思っておりますので、今後共、御指導をお願い致します。



昭和五十六年度卒  
大内支部 小池 裕一郎

光陰矢の如しと申します。私が真岡農業高校を卒業したのは昭和五十六年度であります。そして東京農大を卒業して就職いたしました。土地改良の中なかでの就農でした。苺と米と麦の専業農家です。苺作り仲間めぐまされて山あげ栽培に取りくんで居ます。今話題の栃木十五号は県で三ヶ所の試験地にえらばれて今年で三作目になります。一果重七〇gの実は見事で

### わが家の農業経営



昭和四十四年度卒  
田野支部 荻部 公一

私は、昭和四十四年度、真農高の農業科を卒業し同時に就職しました。

就職当時の我家は、タバコ、米、落花生、麦の複合経営でした。仕事が重なり落花生の草取り等は雇用でやったりしたもの、採算のとれる状態ではありませんでした。

そこで私は、タバコを中心に稲作としたいけを加えての経営をスタートしました。

機械化等により毎年三aずつ増反して行き昭和五年には二aで一万円以上の所得が確保できるようになりました。その後簡易選別、ミシンの導入、受委託乾燥施設の建設等に伴い三aまで耕作し、県内では一番の耕作面積を維持し、収入も二年來一番を維持し続けているので、今後共、御指導をお願い致します。

私は、昭和五十二年に真農を卒業し、すぐに農業を継ぐ予定でしたが、両親がまだ若いこともあって、社会勉強の為、会社に勤めました。

四年前に会社を退職し現在、苺三a、米三a、玉葱三aを栽培し、苺を主としています。

苺は女峰で、ポット育苗と無仮植を半々に栽培

### わが家の農業経営



昭和五十二年度卒  
久下田支部 佐藤 信一

私は、昭和五十二年に真農を卒業し、すぐに農業を継ぐ予定でしたが、両親がまだ若いこともあって、社会勉強の為、会社に勤めました。

四年前に会社を退職し現在、苺三a、米三a、玉葱三aを栽培し、苺を主としています。

苺は女峰で、ポット育苗と無仮植を半々に栽培

### 二十一世紀に向かって



昭和四十二年度卒  
上三川支部 高橋 義夫

戦後生まれの一番多い世代に生まれ、今思うと、長男ばかりの同級生だったので、楽しい学生時代を過ごしたと、思い出します。その当時地域では、苺栽培が普及され始めた時期だったので、すんなり栽培を産地化できたのとタバコ仲間、先輩と一緒に始まった所です。

我が長男も真岡北陵高校に入学し、後継者としての一歩をふみ出した今、専業農家としてゆとりある生活ができるような骨組みを考えるとこれからの農業を歩んでいきたいと思えます。

農閑期の狩猟イノシシ狩は、父とともにタバコ作の原動力ともなる趣味の一つです。

地域の仲間と共に、勉強し、夢のある楽しい農業をめざして頑張りたいと思えます。

今後は、女峰と新品種の栃木十五号を導入していきたいと思えます。

地域の人のためのコミュニケーションを図るために、ゴルフクラブを結成し年二・三回プレイしています。また青壮年部にも所属し、色々な行事にも参加しています。

ますます厳しくなる農業経営を、のりこえるために、三年前より青色申告を導入し、安定した農業経営が出来る様、努力していきたいと思えます。

### 挨拶と活動報告



PTA会長 栗飯原 剛

同志会の皆様には、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。又、PTA活動には日頃より御指導・御支援を賜り深く感謝いたしますと共に、厚く御礼申し上げます。

平成七年度より、総合選択高校（農業系三クラス・商業系二クラス・家政系一クラス）真岡北陵高校として、校章・校旗も変わり、六月二十七日に樹立式が行われました。女子生徒が多くなりました。商業・家政系の実習室も完成し、現在では備品の導入の段階で、最新の備品です。

今年度のPTA活動状況は四月二十七日・総会・事業計画・役員が決まり、各支部長・役員が一丸となり、PTA活動をこなしております。六月十九日、

地域ぐるみで、対応することが望ましいのではなにかと思えます。

現在、私の地区では営農集団が三年前より発足し私も参加しています。

これからの集団は、いかにあるべきか、サラリーマンの長男達が、参加できる様な魅力ある集団をめざして、今自分達仲間が、課せられた目標に向かって、一生懸命頑張っている所です。二十一世紀に向って、地域ぐるみで楽しく夢のある目標に向って自信と誇りを持って生きたいと思えます。

二十日は県農高P連が那須拓陽高校にて、支部会は六月二十一・二十二・二十八日に開催され、高い出席率でした。七月六・七日は、関P連大会が茨城県にて、七月十三日は役員県外研修にて、気仙沼・松島方面に、塩釜の蒲鉾工場を視察、八月二十三・二十六日、全国高P連岡山県にて開催され、十一月七・九日の間、日本学校農業クラブ全国大会が当県にて開催され、当校は平板測量競技の担当となりました。プロジェクト発表・意見発表・鑑定競技・測量競技・情報処理競技が催され、当校からは、小森先生指導のプロジェクト発表（田口美貴子さん・他九名）が文部大臣奨励賞に、鑑定競技にて、最優

# 活動報告

## 今年の生徒会活動をふり返る

生徒会顧問 白 滝 知 大

早いもので平成七年度も間もなく終わろうとしています。今年度は学科再編の初年度という事もあり、我々生徒会にとっても新しい体制を整えていかなければならないという大きな意味を持っておりました。

これまでは生徒全員が加入するもう一つの組織であった農業クラブ、女子全員が加入していた家庭クラブの加入者がそれぞれ減少していくため、生徒会という組織がより多くの役割を担っていくことを改めて認識させられた一年であったわけでした。

その一貫として農業クラブの関東・全国大会出場壮行会を生徒会の主催で行ったり、学校祭や収穫祭を「実行委員会」という組織のもとで実施したりといった改善を行いました。まだまだ本格的な改編というわけにはいきませんが今後の流れの一つを示すことができましたと思います。

また、しだいに進学者の割合が増加してきたこともあって、生徒の

についても考えを深めてくれるようになればと考えています。

まだまだ反省すべき点はたくさんあります。今後目標を大きく持って生徒と一緒に生徒会を育てていきたいと思っています。



## 北陵高校、全国大会で

### 頂点を極める

農業クラブ顧問 横 山 孝 司

本年度は、栃木県で第四十六回日本学校農業クラブ全国大会が開催されました。本校は、「平板測量競技会」と「とちぎの農業展」を受け持つこととなり、平板測量競技会の生徒実施委員長は、農業機械科三年大関剛君、とちぎの農業展の生徒実施委員長は、農業経営科二年館保君がそれぞれ各実務委員長を中心に農業クラブ員が一丸となって活動の結果、競技会展示会とも大成功の内に幕を閉じることができました。

次に本年度の農業クラブ各種発表会及び競技会の結果をここで、報告させていただきます。農業クラブには意見発表、プロジェクト発表、農業鑑定競技、測量競技、農業情報競技の発表・競技会があり、今年度は全国大会が本県開催でもあり、校内大会から熱戦が繰り広げられ、レベルの高いものとなりました。

意見発表では、農業経営科三年木村哲君（A・

年間口美和さん他十一名が優秀賞を獲得しました。さらに、全国大会に出場した生活科学科三年田口美貴子さん他九名は、最優秀賞に輝くとともに文部大臣賞も獲得しました。

農業鑑定競技は、校内競技や全国大会農業鑑定競技ハイスル大会で優秀な成績を残した農業経営科三年小玉仁子さん、一年小葉哲也君、農業機械科一年小川浩治君、食品化学科三年野沢知代さん、生活科学科宮崎かほるさんの五名が農業クラブ全国大会に出場し、食品化学科三年野沢知代さんが最優秀賞を農業経営科三年小玉仁子さん、農業経営科一年小葉哲也君が優秀賞を獲得しました。

また、全国大会に先だって行われた、全国大会農業鑑定競技ハイスル大会では、食品化学科三年野沢知代さん、生活科学科宮崎かほるさんが最優秀賞を獲得しています。

測量競技には、Aチーム農業機械科三年水沼寛君・坂本健一君・大越正尚君・柳田広道君、Bチーム農業機械科二年石崎正稔君・宮沢健一君・大橋渡君・上野誠君が本校で実施された県大会に出場し優良賞を獲得しました。

農業情報処理競技会県大会では、農業経営科三年菅谷正一君・矢口篤史君・川中めぐみさん・堤静江さん・細谷弘美さん、生活科学科三年飯田真紀子さん・柳田幸花さん、

## 介護学習で

### お年寄りとの交流を

家庭クラブ顧問 外 館 規 子

本校の家庭クラブは、真岡市亀山にある老人ホーム「椿寿園」との交流を長く続けています。花壇作り、夏祭りへの参加、手作りケーキや舞たけ御飯を届けるなどの活動も定期的に続けていますが、本校の家庭クラブの特徴は、家庭クラブ員がクラス単位で椿寿園を訪問し、介護学習を通してながらお年寄りとの交流を持つ

食品化学科二年小幡美陽君・大門勉君・綱川知良君・石坂朋美さん・白野真弓さんが参加し、優秀賞に農業経営科三年矢口篤史君、優良賞に農業経営科三年堤静江さん、生活科学科三年飯田真紀子さん、食品化学科二年小幡美陽君が入賞することができました。

また、農業クラブの競技会以外でも第六回オランダ派遣農業研修では、農業経営科二年館保君が、農業クラブ派米研修では、農業経営科三年木村哲君が参加し、ホームステイを体験し大きく成長し元気に帰国しました。

最後に、農業クラブ活動にご支援を頂いた方々に深く感謝申し上げます。ともにこれからも皆様方のご指導とご鞭撻をお願いいたします。

どを学習し、足浴の実習や爪切りを行いました。今年度から二年生の男子も家庭一般の学習が始まり、老人ホーム訪問に参加しました。男子生徒にとって初めての体験でしたが、顔中油汗をかきながら、緊張した表情で実習に取り組んでいました。三年生では老人の栄養・食事について学習し、食事の介助を行いました。まず、部屋から食堂まで車いすで移動し、指導員さんの指示により食事配膳を行いました。お年寄りの健康状態や体調によって献立が異なりますので、間違いないように配膳しなければなりません。一人で食べることでできないお年寄りにスプーンで食物を口まで運びます。

表情を見たり、話しかけたりしながら、食事をすすめます。三年生になると気持ちのゆとりも出てきて、自然な会話をかわしながら食事介助をすることができました。

この介護実習で初めて老人ホームを訪れた生徒も多く、今までの印象と変わり、お年寄りの表情が明るく、施設・環境が整っているのに驚いていました。お年寄りのうれしそうな顔を見て、訪問して良かったという感想も多くありました。

このような実習を通して、生徒がお年寄りを理解し、お年寄りについて何かを考える機会が得られるような活動を今後も続けていきたいと思っています。

## 平成7年度の進路状況

進路指導部長 稲 葉 光 國

平成七年度は各企業とも生き残り、求職活動が継続するなかでの就職活動で、昨年を上回る「超氷河期」といわれるような厳しい就職状況が続きました。

平成四年度に十倍を超えていた本校の求人倍率は平成六年には二、三倍という激的な減少となり、環境の激変に生徒の意識がいついていけなという側面もみられました。平成七年もさらに厳しい状況になることが予測されましたので、三年生の担任を中心に早くから進路意識の明確化と徹底した進路指導を行ってきました。

その結果、求人倍率が一、八倍というなかでも一次試験不合格が平成五年以来最低となり十一月には九九%の内定率を実現することができました。特に昨年度新規の企業に就職した先輩達の勤務成績が大変よいというところで好意的に採用して下さった企業がいくつもあり、企業人として御活躍されている同窓生に深く感謝申し上げます。

また不況のあおりで公務員を受験する生徒が多くなり軒並み二ケタという競争率のなかで、消防士一名、自衛隊三名という合格者のあったことは後輩への励みになると思います。

## 活 発 な 海 外 研 修

### オランダ研修に参加して

農業経営科二年 館 傑



私は平成七年七月十三日より八月八日までの約一カ月間オランダ派遣農業研修に参加して来ました。

初めに、このオランダ研修にあたり、多くのご支援を頂きました関係機関の皆様、そしてご指導いただいた多くの方々に心より深く御礼申し上げます。私はこの夏、貴重な経験と素晴らしい思い出の一つの家族を得ることが出来、本当に感謝しています。

このオランダ研修のまえに五回ほどの事前研修があり、リン先生と栃農高の猿山先生の英会話の勉強、そして館野先生他多くの方々のご指導があり、とくに英会話等とはとても役立ち、感謝しています。

そして出発当日、研修生全員着慣れないスーツに身を包み、緊張する気持ちを抑え、飛行機で日本を後にしました。約十二時間のフライトは、とても短く感じ、あっという間でした。でもオランダに一步足を踏み入れたとき、「よし、がんばるぞ」と私の心はやる気いっぱいになりました。この日はアムステルダム市内のホテルに泊まりました。

二日目は、ホームステイ先の代表のヤン・ステイネル・ヘンさんが私達と対面しました。ヤンさんは、とても明るく、いつも笑顔でいてくれて私の心を解きほぐしてくれました。そしてヤンさんとともに、電車に乗りメッブルという駅に行きました。そこではすでにホストファミリーの方が三人ほどきていて、私達をロイネンのホテルまで送ってくれました。

三日目、いよいよホームステイが始まりました。私を受け入れてくれたムーフェン一家は御主人のヘンクさん、奥さんのヤニトさん、長男のアリアン君、二男のマルコ君、そして長女のイシシちゃん、五人家族でした。みんな本当に私を家族の一員のように明るく、そして優しくしてくれ、帰国した今でも、心から感謝しています。

ムーフェン家は、搾乳牛五十八頭をはじめ百十頭の牛と牧草地二十五ヘクタール、飼料用トウモロコシ畑五ヘクタールを所有するオランダでは小規模に部類する酪農家でした。

一日の仕事は、朝の搾乳から始まります。そして牛舎の掃除、牧草地の管理（スプリングラーでの水撒き等）、大型トラクター等の機械の整備および修理、搾乳牛に与える牧草の刈り取り等でした。そして夕方の搾乳をして一日の仕事は終わります。

この他にもその日に計画された仕事を行います。一日の仕事の中には十時と三時に必ずティータムがあります。どんなに忙しい時もこの時間になると仕事を中断し、家族全員でコーヒーや紅茶を飲み休むのです。また日曜日も朝夕の搾乳だけをして他の仕事はしません。そして家族でサイクリングに出掛けたり、車でい

ろんな所に行ったりするのです。私は思いました。本当にゆとりのある生活をし、また家族との時間を大切にしていると。私はこのような事は今の日本に忘れかけているものだと思いました。仕事に慣れて振り回されることなく、ゆとりある生活を送っている彼らは、とても生き生きしていると感じました。

約三週間という日々はあっという間に過ぎて行きました。ホームステイが終了する前の夜、ロイネンにあるレストランでムーフェン一家と別れる時が来ました。私はあまりうまく御礼の言葉も言えないまま電車に乗りました。みんないつまでも手を振ってくれて、本当に言葉に出来ないほどのホストファミリーのみんなの心の暖かさが伝わって来て、私はこの事を一生忘れないことを心に刻みロイネンを後にしました。

### アメリカ派遣研修に参加して

農業経営科三年 木村 哲



昨年の7月18日から8月8日までの三週間、私は第十回記念F.F.J米

国派遣農業実習に参加してきました。三週間の内、二週間は、オハイオ州でホームステイをしながら研修や、実習を行ってき

ました。私ははじめ、野菜園芸農家を希望していましたが、現地の都合で酪農家にホームステイしました。私のお世話になっ

たヘンリーさんのお宅は、このオランダでの経験を生かし、多くの人達に伝えて行くと同時に、私の人生の将来に多いに生かして生きたいと思っています。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

8月8日までの三週間、私は第十回記念F.F.J米国派遣農業実習に参加してきました。三週間の内、二週間は、オハイオ州でホームステイをしながら研修や、実習を行ってき

ました。私ははじめ、野菜園芸農家を希望していましたが、現地の都合で酪農家にホームステイしました。私のお世話になっ

たヘンリーさんのお宅は、このオランダでの経験を生かし、多くの人達に伝えて行くと同時に、私の人生の将来に多いに生かして生きたいと思っています。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

たヘンリーさんのお宅は、このオランダでの経験を生かし、多くの人達に伝えて行くと同時に、私の人生の将来に多いに生かして生きたいと思っています。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

たヘンリーさんのお宅は、このオランダでの経験を生かし、多くの人達に伝えて行くと同時に、私の人生の将来に多いに生かして生きたいと思っています。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

たヘンリーさんのお宅は、このオランダでの経験を生かし、多くの人達に伝えて行くと同時に、私の人生の将来に多いに生かして生きたいと思っています。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

たヘンリーさんのお宅は、このオランダでの経験を生かし、多くの人達に伝えて行くと同時に、私の人生の将来に多いに生かして生きたいと思っています。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

たヘンリーさんのお宅は、このオランダでの経験を生かし、多くの人達に伝えて行くと同時に、私の人生の将来に多いに生かして生きたいと思っています。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。

本当に有り難うございました。心から感謝いたします。



## オーストラリア研修に

### 参加して

農業経営科三年 横山文彦

第一回オーストラリア短期研修は、引率の稲葉先生、一般の方三名、菅谷先輩、宇津木先輩、木村君、僕の計八名で参加しました。研修期間は三月九日から三月二十一日までの十三日間です。研修内容は、リートンでは水稲経営農家でのホームステイ、カンコー農業試験場でのオーストラリアの水稲についての学習などをしました。メルボルンでは、ウィズリーカレッジとの学校交流などをし、シドニーでも市内観光などをしました。

中でも、六日間のホームステイが最も印象に残りました。菅谷先輩と宇津木先輩はカーカップさんの家で、木村君と僕はダフティさんの家でホームステイをしました。ダフティさんの家族は奥さんのエドナさんと二人暮らしで、すぐ近くに息子さんのステイブンさんが住んでいます。初日は、夜にホームステイに入りしました。次の日から、水稲の収穫時期なので収穫の手伝いをしました。収穫には大型の機械を使い作業します。僕たちも大型のコンバインなどに乗せてもらいました。僕達の作業内容は、田の回りの除草作業をすることです。除草する草は小



## 最優秀賞 おめでとう！

### 農業クラブ全国大会

#### 鑑定競技会に出場して

食品化学科三年 野沢知代

私は、三年生にしてようやく農業鑑定競技、食品製造科コースにおいて全国大会出場権を獲得できた。しかし、食品化学科の代表になったんだという実感がなかなかない。夏休みが過ぎ、全国大会が近づくと、毎日放課後、学校で資料集めをし、家に持ち帰り夜遅くまで、資料を整理する日が続いた。また平行して、「とちぎの農業展」の準備の仕事にも追われた。そのためか、心のどこかで、プレッシャーを感じていた。そんな日々があっという間に過ぎ、大会前日の十一月七日を向かえてしまった。大会前日の夜、あせりと緊張のためか、頭の中は真っ白で、何も手付かずのままの状態だった。そして十一月八日の日この日が本県で、第四十六回日本学校農業クラブ全国大会の幕開けとなった。八日の日、那

#### 文部大臣賞に輝いて

生活化学科三年

横山和代  
本橋千恵子

私たち十名は、十一月八・九日に行われた第四十六回日本学校農業クラブ全国大会プロジェクト発表部門において、最優秀賞となり、また、文部大臣奨励賞も頂くことができた。私達は去年も全国大会に行きしたが、おしくも優秀賞に終わってしまったので、今回の最優秀賞は、とてもうれしく思いました。また、全国大会が地元、栃木県で行われたため、

## 千葉大学に合格して

(進路決定までのプロセス)

農業経営科三年 木村 哲

私が本校に入学して早くも三年という月日が過ぎようとしています。この長いようで短かった三年間を振り返ってみると、いろいろな体験が良い思い出となって、頭の中に浮かんで来ます。目立った成績をあげることができませんでした。三年間続けた部活動。農場での実習や研究。緊張の連続だった各種弁論大会。二年生の時は書記、三年生の時は会長を務めさせていただいた生徒会活動。オーストラリア、アメリカへ農業研修に参加し、国際理解や食料問題について自分の考えを広めることができたことなど、その他にも数え切れないほど思い出されます。

#### 出場者

落合雅子・亀倉克子  
清野浩子・高野愛子  
田口美貴子・水上亜紀子  
横山和代・渡辺由香  
横山和代・本橋千恵子



しかし、一年生の時の私には、このような体験ができることは全くと言っていいほど考えられませんでした。この学校の生徒であることが嬉しかったのです。電車に乗っている時には、中学の同僚に制服で分かるはずなのに「どこの学校？」と聞かれたこともあり、三年間続けた部活動。農場での実習や研究。緊張の連続だった各種弁論大会。二年生の時は書記、三年生の時は会長を務めさせていただいた生徒会活動。オーストラリア、アメリカへ農業研修に参加し、国際理解や食料問題について自分の考えを広めることができたことなど、その他にも数え切れないほど思い出されます。

#### 編集後記

このたびの会報は北陵と称して、初めての発行となりました。会員各位にはこれまで同様に、同窓会の組織を通じて、親しみとつながり先輩と後輩の活きた交流、加えて母校の近況などの光景の一部分しか、お届け出来ませんが、これらが取りも直さず会員相互の親睦の一助となることを念願しています。引き続き、この会報がご愛顧をいただける事を編集委員一同は心より期待してやみません。

編集委員長 井野 博